

令和6年度 第14回 熊谷市総合戦略有識者会議議事録	
日時・会場	令和6年12月18日(水) 10:00～ 熊谷市役所6階 会議室603東
次第	1. 開会 2. 議事 (1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況について (資料1・2・3・4) (2) 本年度の取組について(資料5) (3) 第3期熊谷市人口ビジョン・総合戦略について 3. 閉会
資料	【資料1】 本市の人口の推移、合計特殊出生率、人口動態 【資料2】 第2期総合戦略の基本目標別のKPI 【資料3】 転入・定住促進施策の取組状況 【資料4】 地域再生計画の成果について 【資料5】 令和6年度の主な取組について 第3期熊谷市人口ビジョン・総合戦略(案) 第3期熊谷市人口ビジョン・総合戦略 概要版(案)
議事録	
委員	(1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況 (2) 本年度の取組について ・事務局より資料に基づいて説明。 ・意見・質問は以下の通り。 (1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況について 第3期総合戦略(案)で謳われているように、女性の転出が多いということは明確にされていますが、転入に関して男女比率はどういう比率か。
事務局	転入については手元に資料がないので、改めてご報告させていただきたい。
委員長	その他、特に意見が無いようなので、説明した内容で御理解いただきたい。 続いて、第3期熊谷市人口ビジョン・総合戦略(案)について事務局から説明を。
委員	(3) 第3期熊谷市人口ビジョン・総合戦略(案)について 事務局より第3期熊谷市人口ビジョン・総合戦略(案)について説明。
事務局	国の希望出生率「1.8」に沿った目標設定は、現実的に厳しいのではないかと。
事務局	市としても出生率「1.8」は、夢のような数字であると認識しているが、最終的

	<p>に示す 2060 年には出生率「1.8」を達成したいという希望を込めて、こちらの推計を設定させていただいている。また、「子どもを産み育てる」というのは、熊谷市単体でどうにかできる課題ではなく、今後の国や県の取組との連携や地域と一体となって取り組んでいくものであると考えている。そうした中で変化していくものと考えている。</p> <p>いずれにしても、今回の計画は計画期間 5 年間としていることから、5 年後には再度見直しを行う予定としている。</p>
委員	<p>出生率を「1.8」まで上げることは簡単ではないと思っている。</p> <p>結婚をしようか悩んでいる・迷っている人たちに対して、マイナスのイメージを変える政策や、周辺の市町村で働いていても熊谷に住む選択肢ができる政策をお願いしたい。また、今産み育てている人が 2 人目・3 人目と育てていけるように、子どもを多く育てている家庭に手厚い政策を考えていただきたい。</p>
委員	<p>深谷市と熊谷市の人口流出の数値について、住居は深谷、働く先は熊谷という形の人が多いとあるが、深谷に住んでいるのに、なぜ熊谷で働くのか。</p>
事務局	<p>明確にこれといった要因は掴み切れていないが、少なからず、子育て支援策や働き口といったものによる影響はあると思われる。</p>
委員	<p>ここまで出生率上げても、2060 年には 136,000 人にしかならないという現実を見た上で、一定の将来ビジョンを考えていく視点は賢明だと思う。</p>
委員	<p>子どもの発熱等で、大半は母親が休みことになる。委員皆さんの職場では、看護休暇等を取得があるか、お聞きしたい。</p>
委員	<p>看護休暇・育児休暇のルールはあるが、臨機応変に現場の判断で、有休となるか、色々な制度を使うかは、本人の申し出通り受け入れている。また、最近では、男性が休みを取るケースも圧倒的に増えている。</p>
委員	<p>人口ビジョンについて、これまでも基本目標を設定していて、それがなぜ実現できていないのかをきちんと考えることがポイントではないか。</p> <p>また、中心市街地の駐車場増加にみる未利用地活用の検討を踏まえた都市計画、周産期医療体制の構築、第 3 次産業における就職の支援など、熊谷市のビジョンをしっかりと示していく必要があると考える。</p>
事務局	<p>熊谷駅南口については、再整備についての構想を熊谷市で始めているところである。また、コミュニティひろばの北部地域振興交流拠点についても、検討しながら前に進んでいるところである。</p> <p>郊外の準工業地域の取扱いや周産期医療体制についても施策の検討を行いなが</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員長</p>	<p>ら、少しでも前に進めていきたいと考えている。</p> <p>また、農業施策についても、スマート農業の視点を取り入れていきたいと考えている。</p> <p>いずれにしても様々な面において、今後とも市政に御協力をいただきたいと考えている。</p> <p>周産期医療・小児救急医療体制の整備について、高齢出産が増えたことで多胎児や、ダウン症の子が増えており、必要性を感じる。また、熊谷市内に無いことから起こる弊害もあるため、県北に周産期医療、妊婦さんを支えられる病院がつくられるよう、行政としての支援を検討して欲しい。</p> <p>今回の案について、学校教育に関する施策が3つと、非常に薄いと感じる。PTAが崩壊しつつあるなかで、子どもたちの学力を伸ばすことは非常に必要だが、何よりも健全な育成をしていく環境づくりが第一と考える。そのためにも、項目として学校運営の充実を図ったうえで、ベースを作って学力日本一を目指すのが良いのではないかと考える。</p> <p>熊谷市が出生に関する支援事業等を充実させ、市民に十分に周知することが大事だと思う。熊谷駅などで大きくアピールするのが良いのではないかと考える。</p> <p>事業のPRが重要という意見として受け止めさせていただく。</p>
<p>以上</p>	